

2023年5月10日作成

Ver. 2

**重度下肢外傷における遊離皮弁の血管吻合部と術後合併症の関連****1、研究の目的と意義**

- ・「目的」：重度下肢外傷に対して遊離皮弁をおこなった症例について、血管吻合の位置と皮弁合併症発生との関連を明らかにすることです。
- ・「意義」：従来、遊離皮弁の血管吻合を行う位置は外傷の影響が少ないあるいは健常な部位で行うことが望ましいとされてきました。しかし、実際の臨床ではそういった条件が良い位置で吻合できる症例ばかりではありません。吻合血管が外傷の影響を受けている範囲を zone of injury、血管が外傷の影響を受けておらずほとんど健常に近い状態の範囲を zone of injury 外とといいます。zone of injury における吻合は、血管が健常でないため皮弁合併症を増やす可能性が指摘されていますが、創部と近いため皮弁を配置しやすく、剥離操作が減り手術時間の短縮などの利点もあります。近年、顕微鏡の性能もよくなり、マイクロサージャリーが形成外科医にとって一般的な手技となっており、zone of injury における血管吻合が皮弁合併症と関連しているか否か検討します。これを明らかにすることで、重度下肢外傷に対して遊離皮弁を行う際の治療戦略の改善につながることを期待されます。

**2、対象となる患者さん**

2000年1月1日から2022年12月31日の間に重度下肢外傷に対して遊離皮弁を行った患者さんです。下肢重度外傷は、皮膚軟部組織と骨の両方の治療を行った症例で、新鮮外傷だけではなく、下肢重度外傷後に起こった骨髄炎や癒痕拘縮に対して遊離皮弁を行った方も含めます。

**3、研究の方法**

下肢重度外傷に対して遊離皮弁を行った症例を、血管吻合の位置に関して zone of injury 外と zone of injury の2群に分けて術後皮弁合併症について比較、検討します。術後合併症は、皮弁の壊死（部分あるいは完全）、動脈または静脈血栓です。

**4、研究に用いる情報**

本研究はカルテより上記の情報の提供を受けて実施する研究です。

- ・患者背景：性別、手術時年齢、BMI、喫煙歴、基礎疾患（糖尿病など）
- ・病態：開放骨折（Gustilo type 3B/3C）、外傷性骨髄炎、外傷後癒痕拘縮
- ・身体所見：外傷の重症度、再建が必要となる部位
- ・手術所見
- ・治療期間中の検査：エコー、Xp、CT（周術期の深部静脈血栓の有無）
- ・術後合併症 など

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

## 5、研究期間

研究機関長の許可日～2024年3月31日

## 6、外部への試料・情報の提供

該当なし

## 7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 形成外科 研究責任者名 東 晃史

## 8. お問い合わせ先

長崎大学病院 形成外科 東 晃史

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7327 FAX 095（819）7330

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）